

## 令和5年度新規就農者育成事業研修成果報告書

研修生氏名：本田 洸貴

## 1 研修動機

私はここへ来るまで、保育士として施設・保育園といった子ども達が過ごす場所で勤めてきた。子ども達と関わり過ごしてきたことや、保育士として同僚たちと切磋琢磨し、お互いを高め合いながら働く日々は充実していた。しかし、働いていく中で、「保育士の他に今自分が興味を持つ分野を勉強していきたい」という思いも芽生え始め、その興味を持つ分野が農業であった。そこで、農家への道を調べていたところ、須賀川市農業公社のHPを拝見した際に「新規就農者育成事業」の記事に目が止まり、地元の農家の方の下で研修を受けられることや就農支援の存在を知った。また、須賀川市の名産である岩瀬きゅうり（夏秋）の価値にも気づくことができ、これらの気づきや発見・思いから、農業はこれまで学び勤めてきた職を辞してでも、人生を賭けることができるものではないかという考えに至り、「きゅうり農家」への道を決意した。

## 2 研修生となって

## (1) きゅうり栽培農家実務研修

4月初旬～10月下旬まで施設栽培（促成13a・抑制13a）・施設露地（防虫ネット栽培20a）を行っている市内の農家様での研修となった。

まず初めにハウス内で栽培している促成きゅうりの収穫作業について教わった。出荷にあたっての規格・収穫適期のサイズの説明を受けて実践に臨むも、どうしても小ぶりなものまで収穫しがちで、慣れるまで時間を要した。露地栽培では、連作障害対策の消毒作業・暗渠パイプの設置など圃場の根幹となる部分から携わらせていただき、良い経験となった。また、支柱設置の難易度が非常に高いものだと個人的には感じており、特にハリコードやネットの扱いが不慣れであるとすぐに絡ませてしまうと思われるため、細心の注意が必要であると学んだ。定植以降は当然ながらきゅうりの管理・収穫が主作業となり、生長に合わせて手入れ（防除・摘芯・葉かき等）も行っていった。

7月末以降は抑制裁培の管理・収穫も日々の作業に加わり、夏季のハウス内は50度近くなることもあるため、こまめな水分補給と休息、体調管理の徹底が必須となってい

た。厳しい環境での作業が多く辛いと感じた時も正直あったが、それ以上に収穫の喜びと栽培の楽しさも実感できた研修であった。

## (2) 農業関係機関研修

須賀川農業普及所主催で定期開催されている「きゅうり基礎力アップ研修会」への参加が主であった。研修資料では、篤農家の方が作業を行っている様子を動画で確認できたり、地元須賀川での事例に基づいた内容が多かったこともあったりし、とても参考となった。また、よりわかりやすく、よりきゅうりに特化した研修であるため、「〇〇をいつ・なぜ行うのか」といったこともかみ砕いて解説をしてくれていたことで未就農である私でもきゅうり栽培への理解を深めることができた。

## (3) 公社業務研修

農業公社の臨時作業員としては主に、「梅林公園草刈り・梅収穫・剪定枝粉碎」「味噌パック詰め・大豆乾燥・選別作業・味噌作り」等の業務に臨んだ。これまで農業とは無関係の仕事をしてきたために、ここでの業務全てが初めての経験であった。作業員の方々が優しく、作業の一つ一つを初歩的な事から教えていただいたことで、暖かい雰囲気の中で勤めていくことができたと感じる。

## 3 研修を終えて

研修以前の想像していた「農家」のイメージは、正直少しのんびりとしたものであった。だが、研修を得た後の「農家」では印象が随分と変化した。篤農家と呼ばれる方々は、作物への繊細な手入れと管理、関係機関との密な連携、向上心を忘れず学びの心を持っていたと感じる。如何なる作業も自分に甘えず、自立心を持って従事していくことの大切さを再認識した。また、農家様・公社での実践的な業務の中で貴重な経験をさせて頂いたことで、就農に向けての知識も身に付けていくことができた。1シーズンのみの経験なため不安も正直あるが、地域の方々や先輩農家との繋がりも大切にし、必要に応じてアドバイスも頂きながらきゅうり農家として歩んでいけるようにしたい。

## 4 就農展望

就農一年目はきゅうりの露地栽培に努める。私の場合、田んぼを畑へ転作しての栽培となるため、排水性向上と土壌改良がしばらくの課題となってくると思われる。また、栽培規模拡大や他作物に関しては、自分一人でどのくらいの作業を行えるかがまだ見通しが立たないため、慎重に計画していきたい。研修で得た知識を駆使して作業に臨み、学びを活かしきれていない面があれば分析し、毎シーズンごとに成長していけるよう励んでいく。